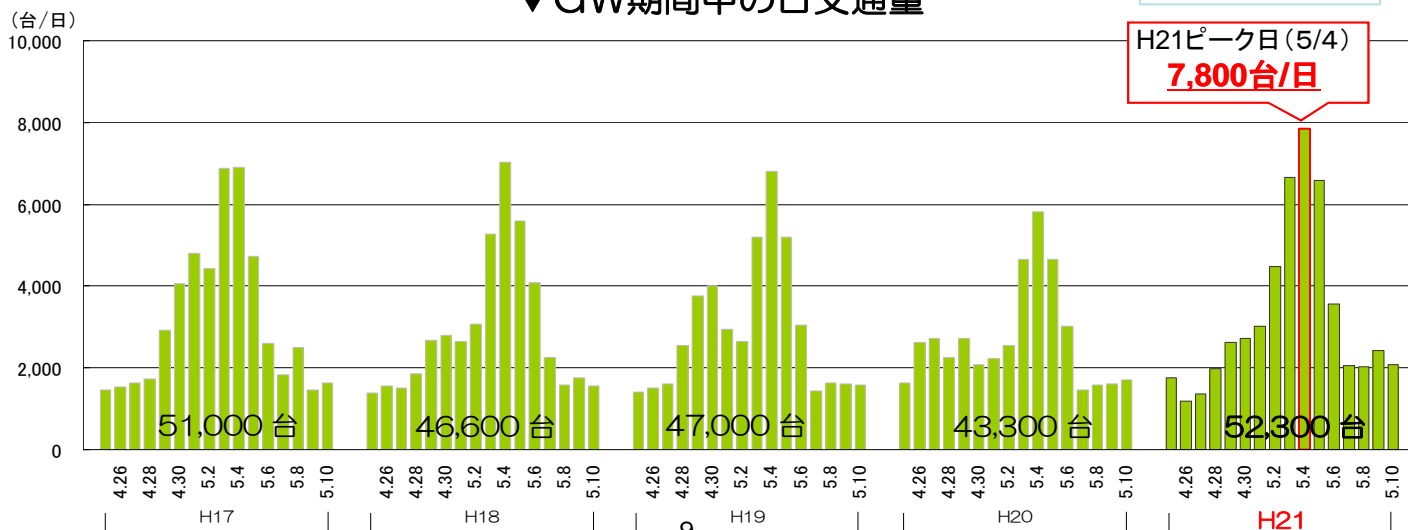


8. 奥入瀬溪流の交通状況



- GW期間総交通量は、今年のGW期間総交通量は、約52,000台と過去5年間で最大を記録しました。
- ピーク日の交通量（1日当たり）も過去5年間で最大を記録しました。
- 主要観光スポット（石ヶ戸、雲井の滝、銚子大滝等）において、終日100m～400mの慢性的な渋滞が発生。最大700m。
- GW中の通過時間は40分～最大1時間程度

▼GW期間中の日交通量



■ 渋滞



■ 冬期路面

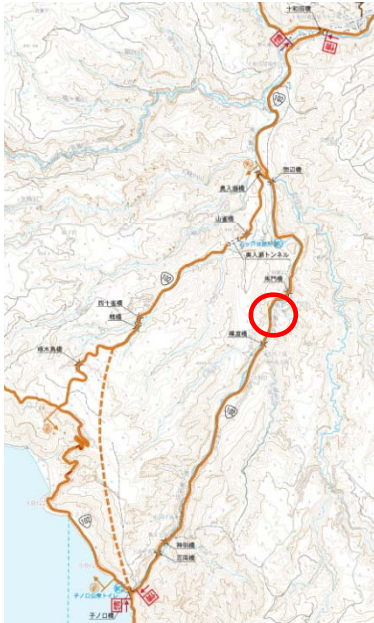


■ 事故



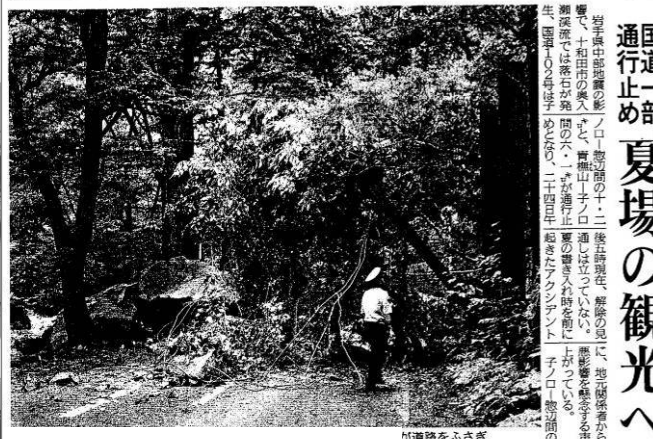
9. 平成20年7月24日発生大規模落石

7/24~7/29
6日間通行止



宿泊キャンセル1300人

大岩 奥入瀬ふさぐ



が道路をふさぎ

国道一部 夏場の観光へ打撃
 国道10号の奥入瀬渓流は、大岩の落下で、遊歩道が通行不能となり、観光客の減少が懸念されている。奥入瀬渓流は、大岩の落下で、遊歩道が通行不能となり、観光客の減少が懸念されている。



落石現場を通過する観光バス。宿泊施設関係者は風評被害を心配する

県南・岩手北部地震

十和田湖周辺 落石・通行止め期間中
 県南・岩手北部地震による落石で、奥入瀬渓流の遊歩道の一部が通行止めとなった。十四日から十九日の六日間、十和田湖周辺の十の宿泊施設に約千三百人のキャンセルがあった。十和田市の調査で、三十日に分った。同市はキャンセルの理由について「揺れが怖い」という声が多く、風評被害が広がっている。地元観光関係者は「かなり多いキャンセルを認める」と話している。

観光施設、風評を心配
 奥入瀬渓流の遊歩道は、十和田湖の東側にあり、観光客の多くが訪れる。地震発生後、遊歩道の一部が通行止めとなり、観光客の減少が懸念されている。観光施設関係者は「風評被害を心配している」と話している。

奥入瀬渓流の遊歩道は、大岩の落下で、遊歩道が通行不能となり、観光客の減少が懸念されている。奥入瀬渓流は、大岩の落下で、遊歩道が通行不能となり、観光客の減少が懸念されている。

東奥日報(平成20年7月31日)

奥入瀬溪流 落石調査徹底やバイパス整備 危険回避 早急な対策を



通行止めが解除され観光客の姿が戻った奥入瀬溪流(左奥が落石現場) 30日前 阿部(左) 阿部(右) 阿部(中)

県南・岩手北部地震から1週間 観光業者らに危機感
 県南・岩手北部地震による落石で奥入瀬溪流は五日間にわたって進行止めとなったが、落石のあった場所は県の二〇〇六年の調査で落石の危険が判明した四カ所の中に含まれていた。うち、改良工事に着手しているのは一カ所だけ。ほかには、土砂崩れの恐れがある所も十九カ所になる。今回の地震は後間だったこともあって幸いけが人などはなかったが、「一度でも人的被害が出れば本県観光のドル箱へのダメージは計り知れない。県は「今後はできるだけ急いで作業したい」としているが、地元観光関係者からは「日も早い根本的対策を望む声が高まっている」と聞いている。

奥入瀬溪流沿いの国道10号と奥入瀬溪流の遊歩道は、大岩の落下で、遊歩道が通行不能となり、観光客の減少が懸念されている。奥入瀬渓流は、大岩の落下で、遊歩道が通行不能となり、観光客の減少が懸念されている。

ほか、冬期間は作業できないことや、国立公園内のため作業上の制約も多い。県は、専門家の調査で緊急性の高い箇所が順次進められている。今後はできる限り、早急な対策を望む声が高まっている。

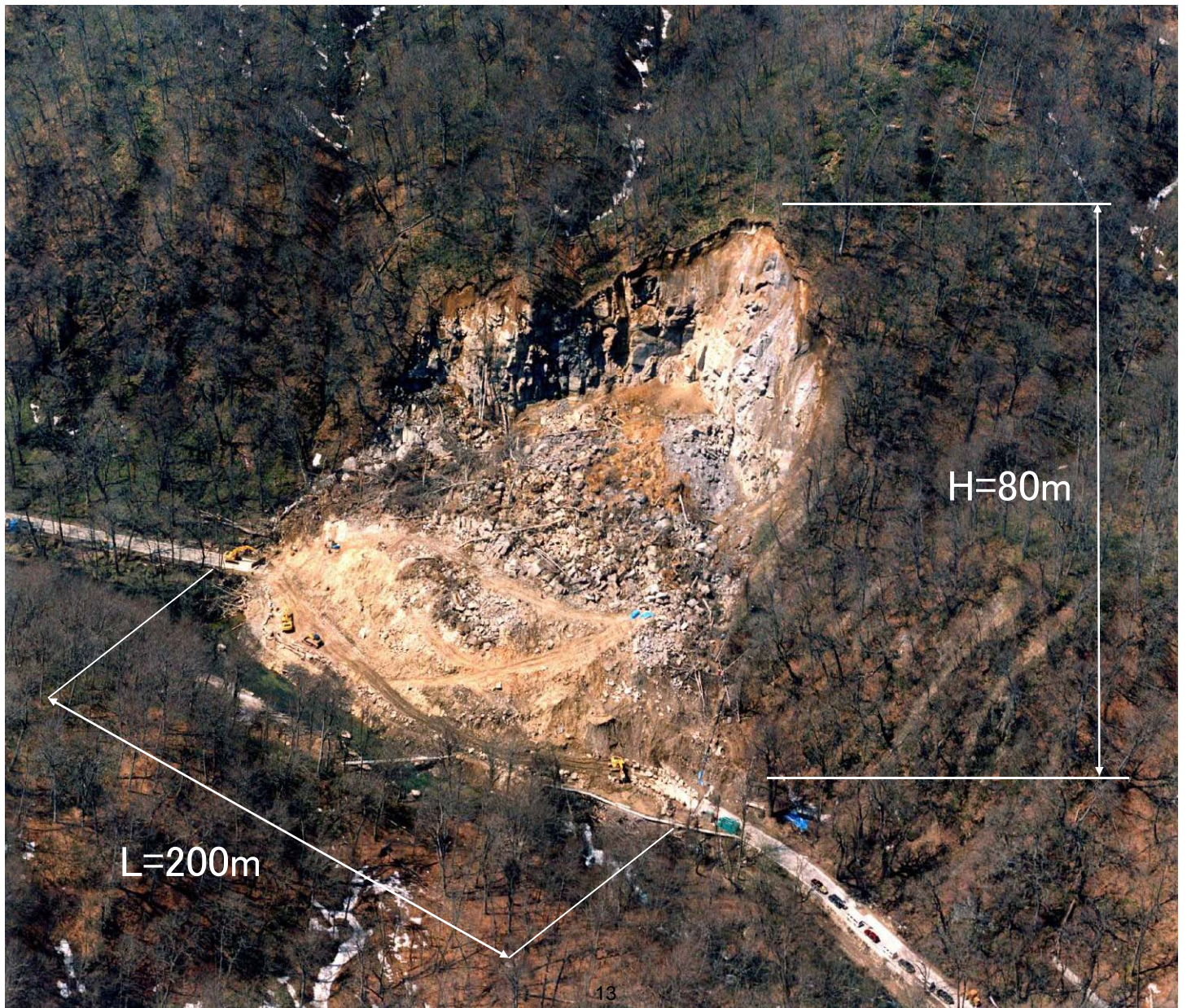
陸奥新報(平成20年7月25日)

10. 平成11年3月10日発生 地すべり(大規模土砂崩落)

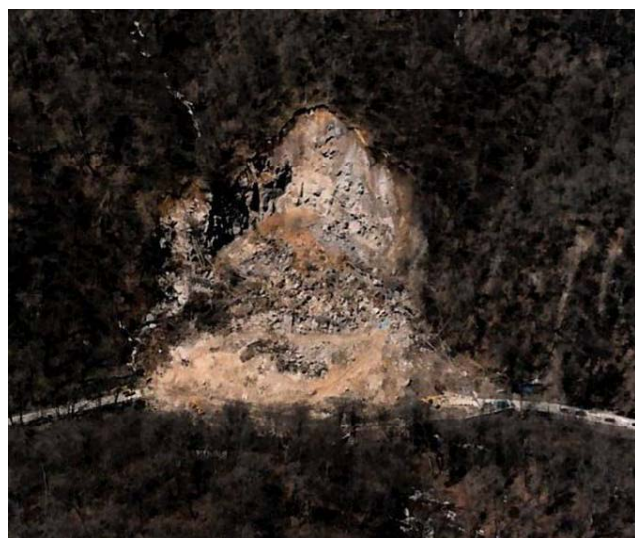
3/10~6/26
3ヶ月半通行止



奥入瀬溪流のダム化による上流側道路冠水



災害～復旧まで



冬期閉鎖路線図



月	日	内 容
3月	10日 AM0:40 (推定)	奥入瀬溪流馬門岩上流付近で大規模地すべり発生。国道102号が約200mにわたり、厚さ約20mの土砂・転石で埋没。奥入瀬溪流も約116m埋没し、上流の道路・遊歩道の一部が冠水。 国道102号子ノ口～石ヶ戸間L=8.5kmを全面通行止め。
	12日	奥入瀬バイパス、七曲区間除雪完了。 迂回路開放。
	24日	七曲区間大型車一方通行規制。
	31日	崩落土砂による上流部の道路・遊歩道の冠水を解消。
4月	初旬	具体的な復旧に向けて、ボーリング調査及び道路復旧の設計等に着手。
	28日	ゴールデンウィーク以降の遊歩道利用者の安全と交通混雑等への対策として、石ヶ戸～惣辺間L=10.0kmについても全面通行止め。 遊歩道の一部(石ヶ戸から500m、子ノ口～白絹の滝間2.7km)を開放し、焼山～石ヶ戸間にシャトルバスを運行。
5月	12日	仮道路工事の着手開始。
6月	26日	仮設道路開通。 奥入瀬溪流通行止め解消。
7月		
8月		災害復旧工事
9月		
10月	28日	災害復旧工事が完成。本復旧完了。 交通開放。

奥入瀬溪流でがけ崩れ

国道102号に大量の土砂

焼山―子ノ口全面通行止め



九日深夜から十日朝にかけて、十和田市の奥入瀬川（九十九川）へびま（へびま）付近で大規模ながけ崩れが発生。大量の土砂が崩れ、奥入瀬溪流の奥入瀬川に流れ込み、国道102号を完全に遮断した。道路の復旧作業は、土砂の除去とがけの補修が中心となっている。

奥入瀬バイパス 県が急ぎよ除雪

国道102号の焼山―子ノ口区間は、大雪の影響で通行止めが続いている。県は奥入瀬バイパスの除雪作業を急ぎ進めている。また、土砂の除去作業も進められている。

土砂の除去作業は、重機による掘削と、トラックによる運搬が行われている。作業は24時間体制で進められている。また、がけの補修も進められている。

奥入瀬バイパスの除雪作業は、大雪の影響で通行止めが続いている。県は奥入瀬バイパスの除雪作業を急ぎ進めている。

日中なら大惨事に



奥入瀬・山崩れ

不安募る湖畔住民

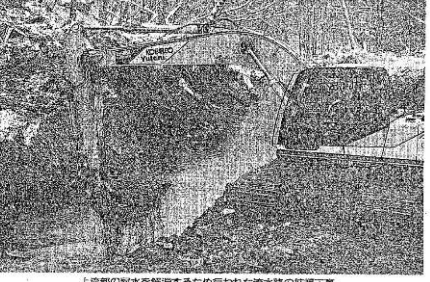
「予測超す事態」県衝撃

奥入瀬川の湖畔住民は、大規模ながけ崩れによる不安を募らせている。県は予測を超える事態に衝撃を受けている。また、土砂の除去作業も進められている。

奥入瀬川の湖畔住民は、大規模ながけ崩れによる不安を募らせている。県は予測を超える事態に衝撃を受けている。

東奥日報（平成11年3月10日）

本格作業 週明けから



奥入瀬溪流大規模崩落

無人重機使い、土砂除去

2次災害の恐れ続く

奥入瀬溪流の大規模崩落により、国道102号が完全に遮断された。県は無人重機を用いた土砂除去作業を開始した。また、2次災害の恐れも続く。

奥入瀬溪流の大規模崩落により、国道102号が完全に遮断された。県は無人重機を用いた土砂除去作業を開始した。

奥入瀬川の湖畔住民は、大規模ながけ崩れによる不安を募らせている。県は予測を超える事態に衝撃を受けている。

